

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 1年 ①基本的な学習態度の定着 ②読書習慣の定着 ③言語・表現活動の充実 ④書く作業の増加
 2年 ①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力(漢字書き・作文)の定着 ③読解力の定着
 3年 ①意欲的な学習態度の定着 ②読解力の定着 ③言語・表現活動の充実

令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より

- ・各学年において課題は異なり、1年生では「聞くこと」、2年生では「書くこと」、3年生では「読むこと」が区平均正答率を下回っている。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は各学年ともに高いため、授業では生徒の興味・関心のある教材の精選や導入の工夫などを行い、下記の課題に取り組む必要がある。
- ・どのような力をつけさせたいかを明確にした単元ごとの授業を徹底していく必要がある。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>中野区の学力テストの結果から以下の分析ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話の内容を聞き取る力」が目標値より4ポイント下回っており大きな課題です。日常の授業でも一度説明した内容を繰り返し質問することがあります。 ・「文章を読む力」「作文」は目標値を上回っており全体としてはよいですが、苦手意識を持つ生徒もおり、個人差が見られます。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部います。</p> <p>②話を聞いて理解することができない生徒がいます。また、目的に沿って話し合いができない生徒がいます。</p> <p>③文章を丁寧に読み進める姿勢の弱い生徒がいます。小説では登場人物の気持ち、論理的な文章では筆者の意見を読み取ることが難しい生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。(ノート作成、ワークシート記入の工夫)</p> <p>②授業内に対話をしながら解決を図る課題を設定し、話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。話の重要な部分をナンバリングするなど、聞きながらメモを取る習慣を確立していきます。</p> <p>③小説では登場人物の言動から心情を推測させる。論理的文章では、構成を明らかにして、筆者の最終的な意見を読み取り、まとめさせる。ワーク等の問題演習をする時間をとり、的確に解答する指導をしていきます。これらを重点的に行い、読解力の向上を図ります。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別にみると、「話す・聞く力」においては聞き取りテスト等の結果から聞く力がついてきています。しかし、自分の意見をまとめること、他の生徒の前で話すことに課題をもつ生徒もいます。 ・「書く力」においては区学力調査の目標値を一点下回り課題があります。 ・「言語についての知識」においては多くの生徒が毎週の漢字の小テストに意欲的に取り組んでいます。 	<p>①聞いて理解する力がついてきた生徒がいるものの自分の意見を伝えることに抵抗感をもつ生徒がいます。</p> <p>②自分の中だけで分かっていて、それを相手に伝えるように書いて表現することが難しい生徒がいます。</p> <p>③基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が見られます。特に継続して学習を進めることが難しい生徒がいます。漢字を正確に書くことが困難な生徒もいます。</p>	<p>①討論やプレゼンテーションの授業を通して、自分の意見を相手に伝える力を養います。また相互評価を行うことで、これからの生活に生かしていきます。</p> <p>②何のために、誰に向けてなど目的を明確にして、書くように指導します。また、書く順序やより伝わるための構成の工夫についても指導していきます。</p> <p>③基本的な学習態度の定着を図り、学習意欲を育てます。(ノート作成、ワークシートの記入の工夫)引き続き毎週漢字の小テストを行い、家庭での学習習慣の定着を目指します。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではほとんどの生徒が意欲的に取り組むことができます。集中して授業に取り組んでいます。 ・中野区の学力調査から「読む能力」の特に説明的文章の読解の正答率が低いことがうかがえます。「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「言語についての知識・理解・技能」は全国、中野区平均を上回っています。 	<p>①問題で何が聞かれているかが分からず、答えが正対していない生徒がいます。</p> <p>②「読む力」の説明文読解において、具体例の概念や段落との関係が理解できていない生徒がいます。また、語句の意味を理解しておらず、間違った語句の使い方をしてしている生徒がいます。</p> <p>③漢字の書きに課題がある生徒がいます。</p>	<p>①読解において何が聞かれているのかを明確にしてから答えるように指導していきます。</p> <p>②説明文の構成や筆者の主張、段落と段落との関係を捉えさせるよう説明文を図解化するワークシートの工夫を行っています。また、語句の意味調べの他に、抽象的な語句の具体例を考えさせ、正確な語句の概念を理解させ、文章を書くときも語句の正確な使い方を指導します。</p> <p>③学習コンテストや毎週、漢字テストを行い、漢字の読み、書きの力をつけていきます。</p>

(2) 社会科

社会科の重点 1年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③思考力の向上 2年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③応用力の向上 3年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の充実 ③活用力の向上
--

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対しては関心をもって取り組む生徒が多くみられ、積極的に発言する生徒も多いです。 ・知識を問う課題に対しては、それを追究する意欲が高く、定着率も高いです。 ・論理的な思考や判断を伴う学習に対応できる生徒は比較的多いですが、その結果を表現・論述する能力については個々に差がみられます。 ・資料活用の技能についてはまだ十分に身につけていない生徒がみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①社会的事象を論理立てて捉えようとする姿勢はみられますが、複数の事象や資料から、地理的・歴史的事象を読み解いたり、予想する力がまだ不足しています。 ②問題文や課題の指示が十分に理解できず、読解や思考のポイントがずれることがあります。 ③板書内容を書き取る、課題に取り組む、ノートや課題を提出するという、基本的な学習習慣が身につけていない生徒がみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・小テストや復習用の課題を活用して反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。 ・電子黒板などのICT機器を活用して学習意欲を高める工夫をしていきます。 ・授業の一連の流れを確認できるようなワークシートを作成します。 ②思考・判断・表現の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項を資料と関連付けたり比較したりしながら捉えるような学習や、「なぜ」という問いを入れながら課題を追究する思考活動などを授業の中に取り入れ、思考力を伸ばします。 ・自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題や、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定します。 ・定期考査において資料活用能力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は高く積極的に発言する生徒も多く、生徒たちの活動が授業の流れを作り出しています。 ・基礎・基本の定着率に生徒間で差がみられます。 ・思考・判断・表現を問う課題に対しては、それを追究する意欲が高く、その定着率も高いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習集団として課題に取り組む意欲や態度が高まりましたが、一部学習意欲が欠落したままの生徒がみられます。 ②基礎学力が不足する生徒にとっては思考をともなう活動や資料を読み解くことが難しくなっています。 ③問題文や課題の指示が十分に理解できず、読解や思考のポイントがずれることがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な社会的事象を個別の知識として覚えるのではなく、相互の関係や結びつきを理解させるように授業や教材を構成します。 電子黒板などのICT機器を活用して学習意欲を高めるとともに、知識と知識との相関関係などを分かりやすく示します。 オンライン機能を活用し、授業を振り返ったり、学力を定着させる教材を提示します。 ②発問や資料の活用法を工夫し、課題を追究する思考活動を授業の中に取り入れます。 自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題や、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲は高く積極的に発言する生徒も多く、生徒たちの活動が授業の流れを作り出しています。 ・知識を問う課題に対しては、それを追究する意欲が高く、その定着率も高いです。 ・問題文や課題の指示と、提示された文章や資料とが正確に結びつかない形で判断している生徒が見受けられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎的な知識を習得する力についてはきましたが、なぜ?という視点から系統的・論理的に捉える力がまだ不足しています。 ②社会的事象について多面的・多角的に捉え、論理的にまとめ表現する力が不足しています。 ③複数の資料から共通点や相違点などを読み取り、分析する能力が全体的に低いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをまとめさせたり、基礎学力を定着させるための小テストや課題を提示したりします。 ・電子黒板などのICT機器を活用して学習意欲を高めるとともに、知識と知識との相関関係などを分かりやすく示します。 ②思考・判断の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・発問や資料の活用法を工夫し、課題を追究する思考活動を授業の中に取り入れます。 ・自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題や、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定します。 ・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。 ③資料読解能力の育成に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る視点を明確にして、読み取った内容を分析する活動を取り入れます。 ・入試対応型の演習を授業内で実施して、読解力を高める工夫をします。

(3) 数学科

数学科の重点

1～3年とも

①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着と向上 ③活用力の定着と向上

令和3年度「中野区学力にかかわる調査 数学」の結果より

自校の傾向としては、各学年ともほぼすべての項目において、目標値を上回っている。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容では、分数や小数の計算が苦手な生徒が多いです。 ・強みは数学的な技能の基本的な問題はよくできます。 ・課題は百分率の計算や、比例・反比例、平均・場合の数の求め方が苦手な生徒がいます。 	<p>①基礎・基本の定着 既習事項の復習や確認といった学習習慣が確立できていないため基礎学力が定着しません。小数や分数の計算に苦手意識を持つ生徒がいます。</p> <p>②技能の向上 小学校で培った力を伸ばし、図形や数量関係を深めるための計算力を養う必要があります。</p>	<p>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。各章の章末テストで基本的な知識・技能の向上に努めます。また、見直しの意識付けも行い、計算力の向上に努めます。</p> <p>②各定期考査前に質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努めます。また、習熟度別授業の強みを生かして、細かく声かけをしていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の学習内容はほぼ理解できています。ただし昨年度の休校の影響が学力差が大きいです。 ・強みは活用分野(思考・判断力)です。 ・課題は数学的な技能がやや弱いことです。計算力不足により正答できていないと考えられます。 	<p>①基礎・基本の定着 二極化しています。小学校や1年の基礎・基本が身に付いていない生徒が一部います。また、小学校の範囲である分数小数の計算に苦手意識のある生徒が多いです。</p> <p>②技能の向上 基本的な計算問題が課題です。簡単な計算でも計算ミスが多く見られます。</p>	<p>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。また、各時間の学習内容を明確にし、関心・意欲を高める工夫をします。スモールステップの手だてを用意し、苦手意識のある生徒でも「わかる・できる」気持ちを伸ばし、成就感をもたせます。</p> <p>②各定期考査前に質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努めます。</p> <p>③各章ごとに章末テストを実施し、到達度を図ります。適宜補習も行います。</p> <p>④週に2回小テストを行い、既習事項の確認を行います。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の学習内容はほぼ理解できていますが、「式の計算」、「関数」が苦手です。 ・強みは活用分野(思考・判断力)と、数学への関心・意欲・態度が高いことです。 ・課題は活用分野に比べて、基礎分野、その中でも数学的な技能がやや弱いことです。 	<p>①基礎・基本の定着 2年までの基礎・基本が身に付いていない生徒が一部います。直前に学習したことはよくできますが、過去の学習内容の定着が課題です。</p> <p>②技能の向上 計算力が不足しています。かっこや分数を含む計算が苦手です。</p>	<p>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。また、各時間の学習内容を明確にし、関心・意欲を高める工夫をします。スモールステップの手だてを用意し、苦手意識のある生徒でも「わかる・できる」気持ちを伸ばし、成就感をもたせます。</p> <p>②各定期考査前に要点の確認テストと質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努めます。</p>

習熟度別少人数指導の充実

・習熟度別少人数指導では、基礎クラスはスパイラルの指導を実施し個々に認め励ますことによって自信を持たせます。また、発展クラスは学びあい教えあう学習により、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わわせて、学習意欲を高めます。

・補充学習を放課後に実施しています。任期付短時間勤務教員が数学科の教員とともに担当し、基本問題を段階を踏んで解くことを重視して、「わかる・できる」気持ちを伸ばしていきます。

(4) 理科

理科の重点

- 1 年 自然の事物現象を見て、問題 を発見する力を身に付ける。
- 2 年 発見した問題に対して課題を設定し、実験観察の計画を立てる。
- 3 年 自然の事物現象を調べ、探求のプロセスを振り返り改善する。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・用語を覚えるのが得意な生徒が多いです。 ・実験器具の扱いに慣れていない生徒が多いです。 ・自然事象への興味・関心が高い一方で、日常生活の中の現象と結びつける力が低いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察や実験に慣れることが必要です。 ②日常生活の現象から、生徒自らが問いを見いだせるような授業が必要です。 ③教科書に書いてある内容の定着はできているが、その知識を活用しながら問題を解決する力を育成することが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察や実験は、実験器具を可能な限り扱いながら行います。また、ICT 機器を用いて観察や実験の動画を作成し、振り返りができるようにします。 ②授業の導入部で、生徒が日常生活との関連を見いだせるような、そして不思議に思うような演示をできる限り行います。 ③実験結果や考察において、文章で自分の考えをしっかりと表現したり考えを共有する活動の場を多く設定し、主体的で深い学びの授業展開を計画的に取り入れます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次より意欲的に学習に取り組む生徒が多くなりました。 ・昨年度に比べ、観察や実験を行えているため、より具体的に実験の内容を理解することができています。 ・自然現象に関する知識の定着はできているが、その知識を活用して思考することが苦手な生徒が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実験器具の扱いに慣れていないため、実験に時間が掛かりすぎてしまいます。 ②化学分野の記号や反応式を苦手とする生徒が多いです。 ③コロナ禍の影響もあるが、観察・実験を通した体験的に学ばせる活動が難しいです。また、お互いが学び合う活動をさらに充実・発展させることが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1人1人パフォーマンステストを行い、技能の習得を図ります。 ②小テストを繰り返し行い、知識の定着を図ります。 ③知識を活用して考える課題を設定したワークシートの作成をします。知識をどのように活用させるかを考える発問、実験結果を考察させる時間をしっかりと確保し、科学的な思考を養います。また、お互いの考えを共有したり議論したりする活動を多く設け、主体的で深い学びの授業展開をします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストなどの繰り返し学習の効果を実感する生徒が増えてきました。 ・実験考察など科学的思考について書くことが苦手な生徒が多くいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教師主導の小テストに頼る傾向があり、自主的な学習行動が不足傾向です。 ②コロナの状況下なので、対面型で班で相談する必要のある実験が難しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小テストの内容を従来型の単純なものだけでなく、応用的なものも導入します。 ②可能な限りコロナ対策の工夫して、実験を実施して、実験考察の練習を増やす。また、お互いの考えを共有したり議論したりする活動を多く設け、主体的で深い学びの授業展開をします。

(5) 音楽科

音楽科の重点

1年 音楽を楽しみ、愛好する心情を育てる。

2年 表現することのおもしろさを知り、積極的に表現活動を行う。

3年 鑑賞と表現のつながりに気づき、創造的な表現を工夫できるようにする。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに意欲的な生徒が多いです。 ・感染対策のため歌唱や管楽器の授業を行うことができていません。 ・音楽鑑賞では、音楽の諸要素に注目して鑑賞することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実技の授業が再開したら、音楽表現における基礎・基本を実技の指導を通して定着させ、表現につなげていきます。 ②音楽の知覚と感受を区別して鑑賞できるようにすることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①合唱における正しい発声の仕方や基礎をICTを活用して見本演奏を見せたり、教員が模範演奏を繰り返し行い、定着させます。 ②一つの領域に偏らず、歌唱・鑑賞・器楽・創作の各領域の系統性をもたせた授業を展開します。 ・ワークシートでの繰り返し学習を行い、学習内容を表現活動へと生かしていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことに意欲的な生徒が多くいます。 ・感染対策のため歌唱や管楽器の授業を行うことができていません。 ・音楽鑑賞では、曲の特徴や音楽の諸要素に注目して鑑賞することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本を活用する能力に個人差があります。 ②話し合いや学び合いの場を増やし、個々の主体性を引き出す手立てが必要です。表現活動を牽引する生徒を育てる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本を使って表現する機会を増やし、学習内容の定着を図ります。 ②協働活動を取り入れ、自分の考えを、根拠をもって発表し合う機会を作り、学習と表現の内容を深めていく工夫を取り入れます。 ・ICTを活用して、良い音楽や演奏を鑑賞し、音楽表現に必要な知識の定着を図ります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して積極的な生徒が多くいます。 ・感染対策のため歌唱や管楽器の授業を行うことができていません。 ・音楽鑑賞では、音楽の諸要素に注目して、自ら分析して鑑賞することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本を活用する能力に個人差があります。 ②他者の感じ方や考え方を知る協働活動の機会が少ないです。 	<ul style="list-style-type: none"> ②表現活動の中で、他者と調和・共感し合いながら表現を深める活動を推進します。 ・ICTを活用して、良い音楽や演奏を鑑賞し、音楽表現に必要な知識の定着を図ります。 ・自己評価や他者評価など、生徒自身が授業の中で互いに評価し合える活動を多く取り入れます。 ・言葉をもって自らの考えを整理し、表現につなげる活動を取り入れます。

(6) 美術科

美術科の重点 <全学年>

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。
- (2) 多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。
- (3) 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ① 図画工作から中学校美術にかわり、楽しく美術の活動に取り組み創意工夫し造り上げていく姿勢を身につけます。 ② 作品の制作進度の差が大きく、遅い生徒の指導と配慮が必要です。 ③ 鑑賞の理解力の向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 完成に向けて、さらに良くするために工夫したり調整する力が必要です。 ② 制作手順や技法について十分に理解できない事があります。 ③ 生徒の経験値によって、情報の共有がし合えません。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 作品を完成させる事だけがめあてにならないよう、机間指導で個々に対して作品についての具体的な工夫例を示します。 ② 技法は必要に応じて、繰り返し実演を行います。アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身につけさせます。 ③ 授業の導入時に5分鑑賞を行い、興味関心を高める時間をつくりまます。
	<ul style="list-style-type: none"> ① 美術に対する興味関心を高め主体的に学ぶ態度を育成します。 ② 1時間の授業に全員が集中して取り組める学習展開の工夫が必要です。 ③ 自分で考えたり、自分なりの意図やねらいをもって制作したりできるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業内容の定着が充分に行えていない事に加え、持ち物や授業態度によって、授業に参加できない事もあります。 ② 作品の制作進度に大きな差が生じています。 ③ 何が分からないか考える習慣を身につける必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 導入や説明、制作時間をコンパクトにし、本時のめあてや次時に必要なものを明確に示します。 ② アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境を作り、制作の姿勢を身につけさせます。 ③ 対話形式の鑑賞を通して、分からないことから解を見いだす練習をします。
	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業中に積極的に言語活動を行えるようにします。 ② 集中力が続かず、作品が完成できない生徒がいます。 ③ 作業は熱心に行うが、創意工夫、考えることに苦手意識のある生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ① プリントの内容や前回の復習など、大切なポイントへの問いかけに返答出来ないことが多く、受け身の様子があります。 ② 終わらせるために作品制作を行うのではなく、制作過程の大切さを理解させる必要があります。 ③ 自分で考えてものを作ることが苦手であったり、前例がないと戸惑ってしまう場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 分かりやすく、答えやすい質問を複数に分けて問いかけ発言しやすい雰囲気をつくりまます。授業中に発言する回数を増やし慣れさせます。 ② アイデアスケッチなど先を見通して制作できる時間をつくりまます。 ③ 授業導入時に5分間鑑賞を行い、日常生活の中にある美術の果たす役割にも目を向け、卒業後も美術に対する興味・関心をもち続ける意識(感性)を育てまます。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点 <全学年>

- (1) 運動と健康・安全の関係を意識し、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させる。
- (2) 基礎的な技能や知識を身につけ、それを活用する力(思考力・判断力・表現力等)を育む。
- (3) 運動の楽しさや喜びを味わわせ、生涯スポーツに向けた実践力を育てる。
- (4) 主体的に学ぶ態度、仲間と関わり合いながら学習する力を育む。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね意欲的に運動に取り組むことができますが、自ら課題を見つけ、主体的・対話的に学習を進めるといふことについて不十分な面もあります。 ・特に「走る」「投げる」といった基礎的な体力は、低い傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎的な身体能力の向上を図ります。 ②主体的に学びに向かう力を育てます。 ③自己の課題に取り組む姿勢を育てます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①種目に応じた補強運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ②学習カードやICTを活用し、思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ③グループ学習のモデルを示し、チームやペアでの教え合いや話し合いを通して、係やリーダーの育成に力を入れます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や運動への意欲、関心が高い生徒とそうでない生徒の二極化傾向が見られます。 ・体力は、全般的に低い傾向にあります。特に男子はその傾向が顕著です。 ・思考力・判断力・表現力については不十分な面もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎的な身体能力の向上を図ります。 ②主体的に学習に取り組む、自己の課題を我慢強く解決する姿勢を育てます。 ④思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①種目に応じた補強運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ②係やリーダーを中心とした自主的な授業を進めていくことができるようにします。 ③学習カードやICT及びオンライン学習の活用し、思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね意欲的に運動に取り組むことができます。 ・自ら課題を見つけ、解決のための方法を選んだり工夫したりする力に不十分な面が見られます。 ・思考力、判断力、表現力等は少しずつ成果が見られ、的確な分析や文章表現ができるようになってきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎的な身体能力の向上を図ります。 ②主体的に学びに向かう力と協力して学習を進める人間性を育てます。 ③自己の課題を的確に理解し、課題解決に意欲的に取り組む姿勢を育てます。 ④思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①種目に応じた補強運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ②係やリーダーを中心とした自主的な授業を進め、授業全体で協力し、互いに高め合う雰囲気を作っていきます。 ③学習カードやICT及びオンライン学習の活用し、思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点 <全学年>

- (1) 課題解決に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指します。
- (2) 実践的・体験的な学習活動と、適切な評価をおこなうことで学習意欲を高めるようにします。
- (3) 生活と技術を関連させた題材により、生活の自立に必要な基礎的な知識と技能を身に付けるように指導します。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・既存の知識・技能の定着度や生活経験に差があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な知識や技能の振り返りを繰り返し行い、定着を図ります。 ・それぞれの学習内容に対して、興味や関心をもたせることが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階を踏まえた小テストや実技テストを実施し、知識や技能の定着を図ります。 ・導入時には、生徒の既存の知識を踏まえながら、生活における身近な例を挙げて生徒の興味や関心を引き出す授業展開を行います。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次に比べて、落ち着いて授業に取り組む生徒が増えてきています。 ・課題解決に向けて、個々に解決法を考えることができます。実生活と結び付けながら生活に生かしたいことを見い出せるようになることが課題です。 ・実技に対して苦手意識をもっている生徒が多いです。 ・個々の活動の目的を理解できていない生徒がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が生活の中での課題を見い出せる授業展開が必要です。 ・作業の基礎・基本を丁寧に指導する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で問題を見い出し、課題を設定して、何のために学ぶのか、目的を明確に設定し、生徒自身が学ぶ意義を自覚できるようにします。 ・学習内容について、生活に活用・活用できるものや家庭や地域などにおけるさまざまな場面で活用できるような指導を行います。 ・ICT機器を活用して、用具の使い方や縫い方を提示し、確実に定着できるように指導します。 ・学習の目標に加え、活動一つ一つの目的や留意点を適宜提示します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は熱心で落ち着いています。 ・製作では、意欲的に取り組む生徒が多いですが、技能の定着に個人差がみられます。 ・限られた時間の中で、創意工夫を考えながら製作することが苦手な生徒が多いです。 ・iPadの操作について個人差が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の基礎・基本を丁寧に指導する必要があります。 ・全体の見通しをもって計画的に製作できるように指導する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、用具の使い方や縫い方を提示し、確実に定着できるように指導します。 ・毎時間、導入時に学習の見通しを明確に立て、創意工夫を考えながら取り組むことができる環境作りを徹底します。

(9) 外国語科

<p>外国語科の重点</p> <p>1年～3年とも ① 自立的な学習態度の定着 ② 基礎学力の定着 ③ 言語活動の充実</p>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 外国語」の結果より</p> <p>・校内平均正解率は第2・3学年ともに目標値と全国平均を超えているが、正答率を参考にすると、上位層に伸びが見られる一方で、下位層にはさらなる支援が必要だと考えられる。</p> <p>・英語に関する意識についても、「英語の話が理解できないときには、聞き返そうとしている。」等の項目で肯定的な回答をした生徒の割合が区の平均を下回っているため、興味・関心を引き出す言語活動を多く取り入れた授業を今後更に展開していく必要がある。</p>

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング活動、スピーキング活動にに対して、楽しんで取り組むことができる生徒が多くいます。 ・ペアワーク、グループワークへ意欲的に取り組む生徒が多くいます。 ・学力の高い生徒とそうでない生徒の差があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業での課題や宿題へ取り組む意欲は高いですが、自主的に学習に臨む姿勢はまだ不足しています。 ②小学校で口頭中心で学習した内容が文字につながらない生徒がいる。 ③教科書が変わる、既習と新たに学習する内容を明確にし、身に付ける内容を確認させる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小テストや発表等の取り組みを通し、達成感を得られるようにします。また学習法のシェアなどを取り入れ、自ら意欲的に学習にチャレンジする姿勢を育てます。 ②学んだ英語をアウトプットさせる機会を増やし、自信をつけさせると同時に、繰り返し学習を徹底させ、基礎学力の定着を図ります。 ③各授業毎のポイントが分かりやすい教材（プリント等）を提示し、定期的に小テストを実施し、定着の確認を図ります。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が授業中の様々な活動に活発に取り組んでいます。 ・基本的な語彙を覚えることには取り組めていますが、それを活用してまとまった量の英文を書くことは得意でない生徒も多くいます。区学力調査を見ても、大部分が全国平均を上回っている中、「書くこと」に関して正答率が平均を下回っている項目があります。 ・意欲と理解の両面で学力の高い生徒とそうでない生徒の差が顕著になってきています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業中に課題にうまく取り組めない生徒に対するフォローが十分にきれていない面があります。 ②積極的に Speaking 取り組んでいる一方で、Writing に苦手意識を持ちチャレンジできない生徒もいます。 ③基礎的な内容の定着に時間を多く費やしている分、生徒が主体的に英語で発信する活動が不足しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①少人数指導の強みを活かし、授業中の机間指導を一層充実させます。また、生徒の発話量を増やし、細やかなフィードバックを行います。 ②発話した英語を直後に書く活動を多く取り入れ、生徒たちの自信をつけさせます。 ③場面に応じて英文を話す・書く力を身に付けられるよう、パフォーマンステストを行います。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「外国語表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」を伸ばす必要があります。 ・「読むこと」が「聞くこと」や「書くこと」より苦手な生徒が多く様々な英文の読み取りが必要と思われれます。 ・自己表現力を高めて、必要事項の定着を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の表現したいものを積極的に表現しようとする意欲は高い一方、それらを正確にアウトプットできない傾向があります。 ②長文問題に苦手意識があり、手をつけられない、途中であきらめるといったことがあります。 ③身に付けた知識を活用するために、さまざまなタイプの問題にふれる機会を多くもつ必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①Writing や Speaking に取り組む中で教師からのフィードバックを受け取る機会を多く設けることで、使える表現の正確な定着を図ります。 ②帯活動や入試問題など、たくさんの長文問題にふれる中で、逐一その解き方や読み進め方のポイントを指導していきます。 ③問題演習をこまめに行うことで、問題への抵抗感をなくし、質問に正確に答える力を身につかせます。

少人数指導の充実 (任期付短時間勤務教員活用の工夫)

週4日（月、火、木、金）、教科担当と相談して必要な教材を準備し、一斉授業に出られない生徒について個別に指導を行っています。

ALT活用の工夫

教科書の speaking 教材に工夫を加え、生徒の実生活を踏まえたシチュエーションの内容で練習ができるよう準備をしてもらい、リエゾンなど自然な発音指導をしてもらっています。また、英作文の添削を通じてより自然で実用的な表現を学べるよう助言をしてもらいます。